シンポジウム

GSCC 大阪市立大学大学院 創造都市研究科

Presents

地域運営の新たな仕組み
『地活協』形成の現状と今後

少子高齢化と人口減少、地域のつながりの希薄化などに伴い、地域社会における課題も複雑・多様化する中で、これまでのような全市一律の取組みでは地域ごとの状況に応じた解決は困難という認識に立ち、大阪市は、おおむね小学校校区等地域を基本単位に、各種地域団体やNPO、企業などが、さまざまな地域課題に取り組む地域運営の仕組みとして、地域活動協議会（地活協）の形成を進めています。この取り組みは、大阪市を5つのブロックにわけ、公募により選定された3つの事業者により、昨年から実施されています。大阪市立大学大学院創造都市研究科地域活性プログラム・都市再生プロジェクトでは、この3つの事業者の方々にお越しいただき、『地活協』という地域運営の新たな仕組みの形成について、それぞれの事業者の方々の活動について紹介いただくとともに、課題や今後の展望などについて考えるシンポジウムを以下のように開催することにしました。どなたでもご参加いただけますので、お気軽にお越し下さい。

★日　時　2013年2月13日（水）
午後6時30分から9時

★場　所　大阪市立大学大学院
梅田サテライト101教室
大阪駅前第2ビル6階　JR北新地駅真上

★講　師
第2・4ブロック：・大阪市コミュニティ協会　金井文宏氏
第3ブロック：三菱UFJリサーチ＆コンサルティング　島崎耕一氏
第1・5ブロック：大阪市社会福祉協議会　人選中

★司　会　大阪市立大学大学院　柏木宏

★参　加　無料　　★予　約　不要

地域活動協議会とは？

大阪市は、2012年7月に「市政改革プラン」を策定した。そして、地域の多様な意見を的確に反映し、活動内容の透明性を確保しつつ、各主体がその特性を発揮して、さまざまな地域課題に取り組む自律的な地域運営の仕組みとして、平成25年度末を目途に、市内全332地域において地域活動協議会（地活協）の形成をめざしている。地活協は、おおむね小学校区の地域を基本単位に、地域団体やNPO、企業など多様な団体が話し合い、地域の将来像を共有しながら、地域の活性化に向けて、地域活動や課題解決に主体的に取り組む地域運営していくという。なお、地活協の形成と自律運営を支援するため、民間委託により、各区役所に中間支援組織（まちづくりセンター支部）が設置されている。

創造都市研究科とは？

2003年4月、『都市』をキーコンセプトにした新しいタイプの社会人向け大学院で、関西都市圏の活性化をめざして、少人数のインタラクティブな教育による高度な専門家の養成と問題解決型「知の創造」にとりくんでいる。さらに2005年4月には、実務的研究者（大学等研究機関研究者を含む）養成をめざす大学院「創造都市研究科・博士（後期）課程」も新設。現在、修士課程・博士（後期）課程合わせて約300名が学んでいる。

お問い合わせ
大阪市立大学大学院創造都市研究科
URL: http://www.co-existing.com, E-mail: kashiwagi@gscc.osaka-cu.ac.jp
Hiroshi Kashiwagi

図や写真の説明を記入します。

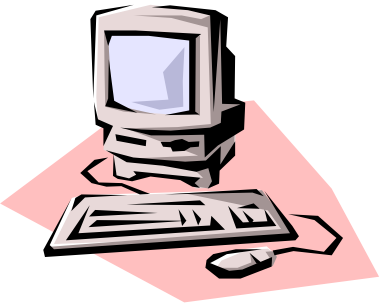
記事の見出し

ここに記載する記事は　370　文字から500 文字程度の長さにします。
ニュースレターを販売促進のツールとして利用する利点は、新聞発表、市場調査報告、各種報告書など別のマーケッティング資料から情報を再利用できることです。
ニュースレターの第1の目的は、製品やサービスを売り込むことですが、ニュースレターを成功させるためにはいかに読者の役に立つ情報を提供できるかが鍵となります。
読者の役に立つ情報には、自分の手で記事を書き、イベントの開催予定や新製品の試供品提供などの情報などがあります。
記事の内容を決めるには、インターネットのホームページを利用して探したりすると良いでしょう。いろいろな話題を数多く取り上げる場合は、各記事の内容を簡潔にまとめて短かくするように心がけてください。

「印象に残るような文章を読者の目を引くよう、記事の中から選びここに記入します。」

記事の見出し

ここに記載する記事は　370　文字から500 文字程度の長さにします。
ニュースレターを販売促進のツールとして利用する利点は、新聞発表、市場調査報告、各種報告書など別のマーケッティング資料から情報を再利用できることです。
ニュースレターの第1の目的は、製品やサービスを売り込むことですが、ニュースレターを成功させるためにはいかに読者の役に立つ情報を提供できるかが鍵となります。
読者の役に立つ情報には、自分の手で記事を書き、イベントの開催予定や新製品の試供品提供などの情報などがあります。



図や写真の説明を記入します。

記事の見出し

ここに記載する記事は370文字から500文字程度の長さにします。
ニュースレターを販売促進のツールとして利用する利点は、新聞発表、市場調査報告、各種報告書など別のマーケッティング資料から情報を再利用できることです。
ニュースレターの第1の目的は、製品やサービスを売り込むことですが、ニュースレターを成功させるためにはいかに読者の役に立つ情報を提供できるかが鍵となります。
読者の役に立つ情報には、自分の手で記事を書き、イベントの開催予定や新製品の試供品提供などの情報などがあります。

記事の見出し

ここに記載する記事は　370　文字から500 文字程度の長さにします。
ニュースレターを販売促進のツールとして利用する利点は、新聞発表、市場調査報告、各種報告書など別のマーケッティング資料から情報を再利用できることです。
ニュースレターの第1の目的は、製品やサービスを売り込むことですが、ニュースレターを成功させるためにはいかに読者の役に立つ情報を提供できるかが鍵となります。
読者の役に立つ情報には、自分の手で記事を書き、イベントの開催予定や新製品の試供品提供などの情報などがあります。
記事の内容を決めるには、インターネットのホームページを利用して探したりすると良いでしょう。いろいろな話題を数多く取り上げる場合は、各記事の内容を簡潔にまとめて短かくするように心がけてください。
ニュースレターに載せる記事は、そのままホームページにすることもできます。Microsoft　Publisher　には、ニュースレターをホームページに簡単に変換する機能が用意されています。

図や写真の説明を記入します。

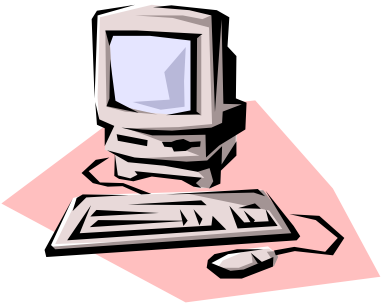
記事の見出し

ここに記載する記事は　370　文字から500 文字程度の長さにします。
ニュースレターを販売促進のツールとして利用する利点は、新聞発表、市場調査報告、各種報告書など別のマーケッティング資料から情報を再利用できることです。
ニュースレターの第1の目的は、製品やサービスを売り込むことですが、ニュースレターを成功させるためにはいかに読者の役に立つ情報を提供できるかが鍵となります。
読者の役に立つ情報には、自分の手で記事を書き、イベントの開催予定や新製品の試供品提供などの情報などがあります。
記事の内容を決めるには、インターネットのホームページを利用して探したりすると良いでしょう。いろいろな話題を数多く取り上げる場合は、各記事の内容を簡潔にまとめて短かくするように心がけてください。

「印象に残るような文章を読者の目を引くよう、記事の中から選びここに記入します。」

記事の見出し

ここに記載する記事は　370　文字から500 文字程度の長さにします。
ニュースレターを販売促進のツールとして利用する利点は、新聞発表、市場調査報告、各種報告書など別のマーケッティング資料から情報を再利用できることです。
ニュースレターの第1の目的は、製品やサービスを売り込むことですが、ニュースレターを成功させるためにはいかに読者の役に立つ情報を提供できるかが鍵となります。
読者の役に立つ情報には、自分の手で記事を書き、イベントの開催予定や新製品の試供品提供などの情報などがあります。



図や写真の説明を記入します。

会社名

大阪市立大学大学院創造都市研究科
Present

ビジネス1の住所
住所2行目
電話 00(5555)5555
FAX 00(5555)5555
Email: someone@example.com

ここには会社の業務内容、モットー、社歴などについて紹介する文章を記入します。取り扱っている製品やサービスのリスト、主催するイベントのリスト、支店の所在地、これまで取り引きがあった顧客や会員にどんな人がいるかなどを紹介するのもよいでしょう。
問い合わせを受け付ける電話番号を明記しておくと読者が会社についてもっと詳しく知りたいときどこに問い合わせたらよいかすぐに分かるので便利です。

ホームページもご覧ください。
example.microsoft.com

キャッチ コピーを入力します

図や写真の説明を記入します。

記事の見出し

ここに記載する記事は370文字から500文字程度の長さにします。
ニュースレターを販売促進のツールとして利用する利点は、新聞発表、市場調査報告、各種報告書など別のマーケッティング資料から情報を再利用できることです。
ニュースレターの第1の目的は、製品やサービスを売り込むことですが、ニュースレターを成功させるためにはいかに読者の役に立つ情報を提供できるかが鍵となります。
読者の役に立つ情報には、自分の手で記事を書き、イベントの開催予定や新製品の試供品提供などの情報などがあります。

記事の内容を決めるには、インターネットのホームページを利用して探したりすると良いでしょう。いろいろな話題を数多く取り上げる場合は、各記事の内容を簡潔にまとめて短かくするように心がけてください。